



ぬくもり

[平成21年2月15日発行]

「心豊かな活力とうるおいのある住みよいまち・可児」を!



旭日の「ふれあいパーク・緑の丘」にて

家族のきずな

微・笑・の・広・が・り

「今年も、素晴らしい年にしたいね」
「あなたたちの、進むさきはね、
太陽でいっぱいよ。
なにがあっても、負けない強い心を大切にね」

目次

- 迎春のかがやき ①
 - 「生きる力を」——本センター会長 日比野雅子
- 特集「人権文化の光彩」 ②～③
 - 平成20年度(第7回)人権啓発入賞「標語・300字小説」
〈解説〉応募者総数: 1,213人(小学生908人・中高一一般305人)
・人権文化=1993年オーストリアのウィーンでの「国連世界人権会議」の考え。地域の伝統、文化に
合わせて人権の高揚を図ること。今回は、詩心での人権文化として、「300字小説」を創設しました。
- コーナー ④
 - 壁の箴言(あなたは知っていますか?) 極めること、やり抜くこととは——
 - 投稿だより(心田への薫風)
・福祉と人権のまちづくり: 可児市社会福祉協議会事務局 安藤千秋
・絵本から学んだこと: 可児市立図書館長 中島繁昇
 - 国連事務総長からのメッセージ(パンギムン事務総長) 他

行事報告

お礼 人権週間 H20 12.4～10
参加者 約300名

○講演会 辻イト子氏



○標語・300字小説展示会
12/4～10(来客120名)
○街頭啓発(12/4)
市民と共に(対話540名)

迎春のかがやき 「生きる力を」 本センター会長 日比野雅子

新春を迎え皆様は個々の胸の内に秘かに夢や期待を育てておいで
のことでしょう。

未曾有の不況の風の吹く世界の中の日本で暮らす私達はどのよう
な心構えでこの「時」を乗り切っていけばいいのでしょうか。こんな時代
だからこそ人と人のぬくもりに支えられて生きてゆくことが大切では

ないでしょうか。

本センターも設立18年の歴史を刻む中での昨年12月の講演会で講
師の辻イト子さんのお話は「発想の転換」というキーワードを自らの人
生の体験から語りかけられ、私達は勇気をいただきました。

次年度も助け合う住みよい町への発展を願いながら、啓発活動の幅
を広げ市民の皆様と共に歩きたいと考えております。

平成二十年度(第7回)
・人権啓発入賞(標語)

1053作品
より選考

【最優秀賞】

やさしさは 誰もが取れる 金メダル
亀谷昇吾(小学校六年生)

【優秀賞】

人と人 つなぐ言葉は ありがとう
深見梨香(小学校六年生)

あいさつの キャッチボールで みな笑顔
今橋卓也(小学校六年生)

いやなこと しない言わない だれにでも
中野 豪(小学校六年生)

差別はね 生きる権利を こわして
青山将大(小学校六年生)

人権は 誰もが持つてる たからもの
奥村勇也(中学校一年生)

【入選】

勇気こそ 差別をなくす 第一歩
森田アリカ(中学校一年生)

見ないふり それがいじめのはじまりだ
澤田静姫(小学校六年生)

きつと伝わる あなたの気持ち
笑顔が広がるやさしい輪
鍵谷知香(小学校六年生)

おたがいの 気持ちが分かれれば いじめ無し
小池裕子(小学校六年生)

ごめんねは 仲直りできる まほうの薬
姥原優奈(小学校六年生)

おはようと 声をかければ 笑顔生む
荒井遥香(小学校六年生)

簡単に 大事な命 捨てないで
高柳遼平(小学校六年生)

考えよう 君もその子の 身になって
浅井祐香(小学校六年生)

だれだって 世界に一人 大切に
長屋佑季(小学校六年生)

なやまずに 話してみよう その気持ち
柳橋海斗(小学校六年生)

ありますか? 「やめて」と言える その勇気
貝川徳宏(中学校二年生)

やさしさが ほんのり心に 人権啓発
涌井忠治(一般)

許す勇気と 認める勇気
あなたに勇気はありますか
三品朱里紗(小学校六年生)

知らんぷり いじめにつながる その態度
藤澤葉月(小学校六年生)

声かけて 仲間の笑顔を ふやそうよ
小林みのり(小学校六年生)

この世には むだな命は 一つもない
岩澤健太(小学校六年生)

覚えてて あなたはいつも ひとりじゃない
渡辺莉帆(小学校六年生)

見ないふり あなたも一緒に いじめて
武尾美波(小学校六年生)

差別なく みんなが笑顔の 輪をつくらう
渡辺 慎(小学校六年生)

あなたから 笑顔でその手 差しのべて
山野紗希(小学校六年生)

あさの声 げんきいっぱい いいえがお
長瀬真侑(小学校六年生)

あいさつは 心のとびらを 開くカギ
松尾幸汰郎(小学校六年生)

なやみ事 聞いてあげられる 仲間になろう
足立芽衣(小学校六年生)

ぬくもりは 小さなことでも 生まれます
西尾光樹(小学校六年生)

やさしい手 勇気をだして さしたそう
神田果奈(小学校六年生)

ありがとう それはみんなの 共通語
柴田知明(小学校六年生)

たいせつな ともだちまもろう 君の手で
大平みなみ(小学校六年生)

振り向いて あなたの助けが 今欲しい
吉野隆人(中学校二年生)

やさしさは 心の奥に 響くもの
天野賢優(中学校二年生)

命はね 再び咲かない 尊い花
坂崎大樹(中学校二年生)

やめようよ 言葉の刃は 心に刺さる
川崎真輔(中学校二年生)

さしのべよう 弱い立場に 救いの手
渡辺悠太(中学校三年生)

おはようと 一言いえば 笑顔の輪
田丸 綾(小学校六年生)

まわりには あなたを守る 人がいる
大脇亜也加(中学校二年生)

話すこと 心を開く 第一歩
奥村理央(中学校二年生)

助け合い 手を差しのべる 勇気かな
桜井友也(中学校三年生)

● 人権啓発入賞(300字小説)

160作品より選考

【最優秀賞】

井戸綾香(中学校一年生)

あの時の私は一人ぼっちだった。教室では空気と同じような存在になっていた。

けれど、そんな私にも「部活」という居場所があった。このとき、必要とされることの大切さが私の心をあたためてくれた。

「大丈夫だよ。一人じゃないんだから。」

「ありがとう。」

こんな会話が何回かあり、その言葉にどれだけ救われただろうか。

話し合いの末、私は空気ではなくなった。しかし、私が受けた心の傷は一生直らないであろう。

それでも私は今を生きている。仲間からもらった救いの手に感謝しながら。

【優秀賞】

木村文謙(小学校六年生)

おれは川井。小学六年だ。学校では山本という子にいつもいやがらせをしている。

一学期が終わりに近づき、おれは夏休み友達と川に行こうかと思った。けどあいつもさそっていじめればと思えばあいつをさそった。

「おい山本。こんどの○月△日に○川にこい。」

山本はOKした。

そしてその日はきた。山本はきていた。少し川で遊んだ後、友達山本を一人にしようとかくれた。おれもかくれよとしたとき、足をすべらせて川に落ちてしまった。友達は気づいていない。その時流れはやくもうだめかと思ったら、だれかがぼくのをつかんだ。山本だった。「はやく手につかまれ。」その日からいじめめることはなかった。

【優秀賞】

新田ひかり(中学校三年生)

簡単な言葉でいい。

朝来た時の「おはよう」でも。

体育が終わった後の「疲れたね」でも。

帰る時の「バイバイ」でも。

毎日学校に行くとき一人ぼっちで、「きもい」とか、「死ぬ」っていわれて、学校から逃げたかった。もうこの世界に存在する意味が分からなくなっていた。ニュースみたいに自殺しようって思ってたんだよ。

「おはよう!!!」

「おはよう……ありがとう。」

だから、貴方の言葉が嬉しかった。ポロポロになった私の心にすっごい薬をくれた。

本気で辛かった私の、大っきな力になった。上手くまとめれないけど、せめて一言言わせて。

「おはよう……ありがとう。」

【入選】

上野晴香(小学校六年生)

「まっちゃんがえたー。」

わたしはまたいつものように笑われている。

ひどい時はバカもブスも言われる。わたしはそりゃーいやだけどだれも友達いないから、だれにも話せない。お母さんに話したら、お母さんに心配かけるだけだと思っから、言えない。結局このいじめには自分一人であらうし

かないんだ。

「ちよつと暗めの顔して家へ帰るとお母さんが、

「どつしたの、その暗い顔、いじめ?。」

わたしはうれしかった長い間かたまっていた氷がとけたように全部お母さんに話した。

心がすっきりした。きつと明日の学校は胸を張っていける。自分は強くなった気がするから。

【入選】

阿部美奈(中学校二年生)

いつも教室のすみっこで一人、本を読んでいる子がいた。私はなんともなかったが、周り

はみんな、「ちよつとね……」的な感じだった。

ある日私は、話しかけようとした。そして、

ある子がこんな事を言ってきた。

「やめなよ、あんな子なんか。」

その言葉になぜかイラついた。だから私は、

「なんかってなんなんだよ?!」と。

次の日は、いつもと変わらないあの子に話しかけた。そしてあの子は、複雑そうに

「私なんかでいいの……?」また「なんか……」

「一緒に遊ぼうよ!つまらんでしょ?ね!」

それから周りも変わり始め、今となってはみんな楽しく遊べている。一人が変われば変わる。

【入選】

藤田尚子(一般)

小さく息を吐いた私は、朝早くに自転車のペダルを踏みだした。

心地良く肌を撫でる風を裂き、歌を口ずさみながら青い空を見上げ、私は微笑んだ。

「遅いよ」「ごめん」

膨れた面に謝罪を掛けると、無言で自転車に股がる友。見届けた私は先に、緩い坂に自転車を転がした。友は後に着いてきた。

「そつえば誕生日近いね」「ああ、そうだね」

笑顔で会話をする友に相槌を打つ。

ふと、また空を見上げた。空はまだ青い青い、澄んだ色をしていた。

「ねえ聞いている?」「聞いているよ」

それより気付いている?

一人で居る時より二人で居る時の方が、空は

段違いに綺麗に見える事。笑った顔と同じくらい二人で見る眩しい空は、今日もまた、私達を見守っていた。

【入選】

高橋 舞(一般)

「それでね、お母さん。今日」

ぎゅつと握られた自分の手に伝わる子供特有の熱。ああ思い出す、大切なあの日を。

貴方が生まれた日、生まれつき視力の弱かった私には育てる事が出来ないと言われ、貴方を手放そうと考えていた。こんな母親ではきつと貴方に苦勞をかけるから。その時私の指に伝わったぬくもり。

(この温もりを離せない。離すものか)

小さなぬくもりが貴方と共に歩むことを選ばせてくれた。

「お母さん?お母さんしたら」

「ごめんごめん。さあ、お父さんが、待ってるから急いで帰るっか」

「っん!」

夕焼け小道に手をつないだ親子の影ひとつ、楽しそうに過ぎていく。

(ありがとう)

愛しい我が子、あの日と変わらぬぬくもりに心が温まるのを感じながら。



入賞作品展示(H20.12/4~10) 市役所ロビーにて

複製禁止

壁の箴言

あなたには、知っていますか？
極めること、やり抜くことは

ベル研究所には

情報化の先駆けは、それは、電話である。耳の不自由な子どもに話す事を教えていた若き教育者のグラハム・ベル博士の発明である。今から133年前のことである。
ベルは、師のヘンリー教授に構想を話す。専門でないベルは、開発を他の人に頼もうとしたらヘンリー教授は、厳しく言う。グット・ナイト（自分なにかめー）と。
この教えが、電話の発明につながったという。
ベル研究所の壁に掲げてある「事態がちよっと思わしくないようなら、自ら挑み続けよ」「最後までとどまらずやり抜くのだ」と。
ベルは生涯、忍耐と努力を惜しまなかった。また多くの困った人への支えと励ましをした。
あの三重苦のヘレンケラーと教師サリバンも支え励ましたという。
勇んで、その道を極めようと必死に生きれば、その執念の行動が一切の壁を打ち破ることが出来る。見せかけだけの行動では、その困難さの克服はできないという証である。(編者)

心のビタミン

新刊購入図書から

一日一生

酒井雄武 著

朝日新書

- ・一日が一生と生きて生きる
- ・身の丈に合ったことを毎日ぐるぐる繰り返す
- ・仏さんは、人生を見通している
- ・歩くことが、きっと何かを教えてくれる
- ・身の回りに宝がたくさんある
- ・学ぶことと、実践することは両論

内野登代子撰

マザー・テレサ語る

マザー・テレサ 著

早川書房

- ・考える時間を持ちなさい
- ・祈る時間を持ちなさい
- ・笑う時間を持ちなさい
- ・それは力の源
- ・それは地球でもっとも偉大な力

和田昭治撰

太郎が恋をする頃までには…

栗原美和子 著

幻冬舎

- ・「なんで俺を部落の子に生んだんやっ！」と。母もどれほど辛かったことだろう。この世に生まれ落ちた時から、この子の幸せだけを願っていたのに、——なぜ自分を生んだのか!?と突きつけられたのだ。

天野弘子撰

人権啓発図書貸出し中

人権デーによせて（'08年12月10日）

国連事務総長からのメッセージ

潘基文(パンギムン)事務総長

本年の人権デーは、世界人権宣言採択60周年にあたります。

宣言は、繁栄、尊厳そして平和的な共存の未来を求める人類の願いを形にしたものです。

それは国連の組織としての存在意義そのものです。

私達は今、人権宣言の起草者たちと同様、気の遠くなるほど困難な課題に直面しています。

食料危機と世界金融危機が同時に——。自然環境の破壊——。政治的弾圧が起きています。

災害や貧困、不安による最大の悪影響をまぬかれています。最も幸運な人々でさえ、見て見ぬ振りをする事はできません。虐待と無関心はやがて大きなうねりとなって、地球全体を飲み込みかねないからです。

世界は連帯して、権利、特にその侵害の問題に立ち向かわなければなりません。

宣言に謳われた権利を守ると言う集団的責任を、私たちすべてが果たしていくことを期待します。<国連広報センター(日本語発信)より「文語選択」>編者

「文語選択」>編者

「文語選択」>編者

「文語選択」>編者

「文語選択」>編者

「文語選択」>編者

「文語選択」>編者

「文語選択」>編者

「文語選択」>編者

「文語選択」>編者

「文語選択」>編者

「文語選択」>編者

「文語選択」>編者

「文語選択」>編者

投稿だより

心田への薫風

福祉と人権のまちづくり

可児市社会福祉協議会事務局長 安藤千秋

福祉は、障がい者・高齢者・子ども等福祉サービスが必要とする人が、少しでも今以上に幸せになつていただくためのお手伝いである。対人サービスを提供する福祉分野では、日々の仕事そのものが人権に深く関わっている。人権の尊重は、社会福祉の原点であるといわれている。

今日では、社会福祉制度が充実してきたにもかかわらず、高齢者の孤立死、家庭内の虐待・暴力といった「社会的排除」や「孤立」など、社会的援護を要する人々に、社会福祉の手が届いていない状況である。

可児市協会は、公的サービスでは対応できない福祉サービスの充実や、地域の福祉力を高めるための支援を目指しているが、まだ十分とはいえない。今後も、「ふれあい・いきいきサロン」「小地域ネットワーク活動」などの支援を通して、より安心して住みなれた地域で、家族、友人と暮らしていける人権第一の「まちづくり」を推進していきたいと考えている。

絵本から学んだこと

可児市立図書館長 中島繁昇

一冊の本を紹介します。タイトルが「としよらんライオン」という絵本です。

図書館にライオンがやってきたところから物語は始まります。走らないこと、大声を出さないこと、決まりを守って、ライオンは図書館へ毎日のように通ってきます。ある日、図書館長は棚から本をおろそうとして、踏み台から落ちてしまいます。助けを呼ぶために、ライオンは廊下を走って、大きな声でほえてしまいます。

次の日、図書館にライオンはいませんでした。いなくなったライオンを捜し出して、図書館長は「ちゃんと理由があつて、決まりを守れないことだつたのですよ」と話すのでした。

この絵本は決まりさえ守れば、図書館はだれでも差別しないことを語っています。図書館にはさまざまな本があふれています。多くの人が多くのことを本に学び心豊かになります。本には多くの作者の思いが詰まっているからです。図書館は「人が生きるための図書館」でなければいけないと思っています。

編集後記

(啓発のひかり)

突然的世界的な経済破綻による波が、市民の人心の荒廃を起さねばよいが——。社会の貧しさが心の貧しさとなり、人権がないがしろになることが心配である。

特に各分野の先に立つる人に「心こそ大切なり」と言いたい。人権とは、「人間が人間らしく幸せに生きていくための権利」といわれる。ヒューマンズムの語源は、ラテン語のフムス(humus)であり、「腐植土」の意なのだ。すなわち、人として今まで得ているものを、自らのみが利するのではなく、その豊かな養分を他者と共に生きることを使うことが、本来の人間らしさなのだ。

本年も市民の皆様は沢山の「ぬくもりの声」が届けられるよう努めていきます。

(編者 川手靖猛)

本センター設立18周年事業 (4月～重点施策)

- ①人権相談室 受付中 AM9:00～12:00 予約受付
・受付時に相談日決定
- ②人権常設展示室開設 ・順次テーマ毎整備
- ③ホームページ改編 ・H21年9月頃「新コンテンツ開始」
- ④人権啓発「全国大会」岐阜県で実施
・これに参画 日程:9/19(土)～20(日)
- ⑤人権週間
・「講演会」・「標語・300字小説」募集展示 等)
12/5 7/15～9/15